

木材の品質について【安い物に良い材は無い】

木材の品質とは一口には中々言えません、色んな要素が絡まっています。それが価格に反映します。以下の5要素が品質を見るときの大変な事です。

1、乾燥していて即使える事。 含水率が何%以下と言う表現は少し難しいので避けます。

例えば建築の枠等をモルダー加工機に入れたとき、乾燥が甘い物は毛羽立ち易い。（*注意事項乾燥していても多少毛羽立つ木材もあります。）

2、用途に合わせた材質である事。

窓枠等は所謂カネムジ以上で有れば良い。（カネムジとは二面が見えて二面が見えない場所）過剰な品質は不要である。

3、数量が確実に有る事。

この事を建築士の方とか消費者の皆様は変に思うかも知れませんが、このことは非常に大事なことです。（**今でも極一部の木材業者に数量のごまかしの行為が存在しています。**）

イ、耳付の板と耳断ちの板の違いを参考に書きます。

耳付きの板 3000ミリ（長さ）25ミリ（厚み） 400ミリ（巾）（材積0.0300m³）
400ミリの耳付の板の耳を落とします。↓ 10%は数字上減ります。

耳断ちの板 3000ミリ（長さ）25ミリ（厚み） 360ミリ（巾）（材積0.0270m³）

（**耳付の板は一般的に品質が悪いです。品質が落ちるからあえて耳付き板にするのです。**）

ロ、アメリカ材の製品はインチで計算されています。例えば巾4インチを例に出すと3.5インチ～4.4インチが該当します。私の経験上極一部のシッパーを除き約8～10%欠石します。

4、ごまかしの表示が無いこと。

先進国からの木材輸入はまず信頼されるルートしか存在しません。しかし開発途上国からの輸入材は、少し問題があります。例えばチークの原木はタイ国が一番良い産地ですが、事実上伐採は大幅に制限されています。正規の流通材の材はミャンマー産のみです。それがどうして中国産のチークフローリングと称して安く流通するのでしょうか。不思議ですよ。

日本のヒノキ・杉の話をしめすと、吉野産、東濃産等の表示がされている物がありますが、本当に吉野・東濃と間違いの無い表示をしているメーカーは極限られた会社だけです。

左記表示のマークは全日本木材連合会の表示推進協議会の物です。<http://www.zenmoku/fipc/>をクリックしてください。

このマークがごまかしの無い表示をしているメーカーです。



5、木味が良い事。

木味と言う言葉に何か変だなと思われると思います。木に味があるの？答えは木味＝（イコール）色なのです。木にはそれぞれ色が有ります。例えばカツラと言う木は木味の良い材は乾燥するとタマゴ色になります。そう言う材質を木味が良いというのです。

（材木屋でも、この木は木味が良いと、言う事を正確に理解している業者の数は激減しています。）

小生は木材の品質は数字で全てを表現は出来ません。しかし服部商店の商品は見た目の値段が少し他社より高く思われるかも知れませんが、使って頂ければ値打ちが解ると思います。

正しい手続きをして施工した改正建築基準法か？

耐震偽装事件を受けて6月20日に施工された改正建築基準法は、法律内容が正しいのか、正しくないのか小生は材木業者なので知りませんが、凄く引っ掛かる点があります。それは法律だけを整備して、行政側の準備が全く出来ていないのに完全に実施している点です。それはこの新聞を読んで頂いている建築士の方々は仕事上必ず改正建築基準法は解りますが、建築士以外の服部新聞をお送りしている得意先、仕入先の皆様は、余りご存知無いと思いますので、その為に書きます。私が思う問題点はおおよそ次の5点です。

- 1、認定ソフトが完全に整備されていないのに法律だけを施工している。
- 2、検査をする行政側の人間が理解出来ていないのに、法律を施工している。
- 3、検査等にかかわる人間の数が十二分に確保出来ていないのに、法律を施工している。
- 4、住宅を建てるエンドユーザーに対するこの法律の説明が全く無い。
- 5、一般の消費者が読んだり、見たりするマスコミを通じた告知が本当に少ない。

ところで、自民党が参議院選挙で大敗をしましたが、安部総理大臣は、おそらく自分が選挙で負けた理由は、年金問題、お金の問題と考え、それには直ぐ反省し何らかの答えは出すと小生は政治の素人ですが思います。しかし今回の建築基準法の改正の問題点は年金問題と同じくらい大きな、中小企業問題だと思います。その理由は、住宅に従事する人のみならず本当に裾野が広い問題だからです。車の部品が中越地震で滞り、生産に影響が出ましたが、それ以上の問題になりつつあります。その証拠が先月号で出した記事インフレなのに一部デフレになっている。5月以降建築着工件数の激減はそれを意味しているのです。この事で格差が（政府の法律の施工、運用のヘマが中小零細企業を潰す事になりかねない。大手は資本力があり、不確定要素が多くても少しずつ問題を早期に解決出来るが、零細企業はそんなにお金を掛けられないので問題が生じたとき解決が出来ない。）益々広がるかも知れません。私はこれこそ中小企業問題と言ってもおかしくないと思います。



私はこの法律の改正の事は7月28日まで全く知りませんでした。私が参加している建築士様の勉強会にて教えて頂きました。教えて頂いた環設計の片山社長、本村建築事務所の本村社長に深く感謝します。最後にお二人から、教えて頂いたのは、この法律の施工が、お施主様の凄い負担増となり、建築費用の大幅な値上げになります。又下手すれば多くの住宅産業に携わる業者の倒産が続発する可能性を示唆されていました。

プロの林業従事者のお手紙を見て下さい。

本年度六月号でご紹介させていただきましたが、文面が読みにくいと言うご指摘を受けましたので、再度掲載させていただきます。東京大学北海道演習林生産販売係 岡村行治様から私どもに頂いたお手紙です。

株式会社 服部商店 服部雅章様

このたびは、大変示唆に富む新聞をお送り頂きました。たいへん勉強になりました。ありがとうございます。

このたび、銘木市への本演習林の出品について、内部向けにデータをまとめていたところ、この春の植樹祭の余興として、それを発表する準備をしなければならなくなりました。植樹祭の余興ともなると製材のプロを前にしての事態ですので、不明な点や思い違いの部分をできるだけ解消するため、今回の情報提供をお願いしたところです。幸いにも余興としての発表は中止になりましたが、貴重な情報をいただきましたので、内部での発表の後に適当な雑誌に投稿させて頂こうと思っております。その節は別刷りをお送りし、ご指導を賜りたいと存じます。

さて、北海道の広葉樹資源が枯渇する中で、本演習林は50年間、上層の衰勢木を切って若いこれからの木を残す「林分施業法」を続けて参りました。おかげで国有林と比較すると、有用広葉樹が残る北海道では唯一の森林になっています。しかし、大学法人となる前後から、収入に対するノルマが厳しくなり、この数年で目に見えて銘木が消滅しつつあります。

昨年11月に東京芸術大学彫刻科からカツラの依頼がありました。本演習林にはカツラはあまりないので、広葉樹専門の業者に全道から探し出してもらうようお願いしたのですが、予算の制限もあって入手困難と断られました。本演習林を手を尽くして探しましたが、心腐れのないものはアオカツラばかりでした。打診により心腐れのないものを伐倒しましたが、所々に変色斑が出てきました。切り口の写真を送って、了解の上お買いあげいただきました。試験研究と資源の保存の板挟みに悩む状態です。

今ひとつ憂慮していることとして、北海道の民有カラマツ林が、ここに来て急激に皆伐される事態になっています。林材新聞によりますと今年の伐採予定は、4000ヘクタールで植栽予定は2000ヘクタールとのことです。富良野市の民有林の場合、当初は農家の方々が数ヘクタールずつ分けて所有し道政の指導でカラマツを植えました。間伐材は売れず皆が道政を批判しました。ここにきて、針葉樹合板の技術普及によりカラマツが売れる日が到来しました。これをチャンスととらえ、間伐をして農家が潤えば良いのですが、実際は、お荷物だったカラマツ林をここで売り抜けて離農したい（どうせ後継者がいないので）と考える向きが多いのです。

待ったなしの温暖化対策として、木材のリサイクルは不可欠になると考えられ、そのためにはツキ板よりも無垢の方が優れています。まだ個人的な発想の域をでませんが、木材が製品として使い回されても光彩を失わないためのトレーサビリティのあり方・表示法を思案中です。今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

東京大学北海道演習林生産販売係 岡村行治

私は、服部新聞を始めてからもう一年半になります。その間木材の本質について書いてきましたが、プロの林業の専門家が仰る事と私が新聞で書いてきた事が、相違ないと思いましたが、本当にこれまでやって来た事が間違いなく良かったと思っております。私は建築の素人ですが、プロの木材業者として服部新聞で建築に携わる方に多くの情報を発信し、又承った情報に対して返して行こうと、頑張っってやっています。

服部商店の天然乾燥材は値打ちが違う



上記写真は友人と飲みに行った時の物です。

上記の写真は大阪の北新地の焼酎バーのカウンターです。タモの材で仕上がっています。服部商店が納材してきました現場の中でも、凄く美しく仕上がった現場のひとつです。というのは、一本のタモ材原木から製材した二枚の原盤で作り上げたからです。値段だけを言えば、もう少し安く提供する木材業者も現実には有ると思いますが、天然乾燥で丸々3年半の材と、他社の人工乾燥材では、全く違います。その理由は使い込まなかったら理解できないと思います。人工乾燥とは英語でKD (Kirin Dry・殺す乾燥) と言います。木自身の表面の細胞を少し殺しているのです。という事は、塗装したときの塗りの仕上がりが違うのです。解って頂くには多少の時間が必要です。ある時間が過ぎれば、何とも言えない色に美しく変化します。これが天然乾燥の良さです。

なお紙面攻勢を大きく変更しています。その理由は私の新聞を読んで頂いている方の要請（綴じられない）で大きく変更しました。この新聞に私が書く文字数が大変少なくなり、この新聞にて取り上げる事が、3年で済む事が10年掛かるかも知れない事をお許し頂けるようお願いいたします。